

## 第一回 東三河マコモ研究会のご案内

瑞穂の国、日本の水田農業は水稲生産性の向上、食生活の欧米化、米の輸入自由化などにより、生産過剰となり、昭和45年以来の相次ぐ生産調整で、現在約3分の1の水田が転作、あるいは休耕、耕起放棄地となっています。水田は長年の農業者の努力により、均平化、肥沃化されてきており、食料生産機能の他に、貯水機能、洪水防止機能、温度調節機能、生物多様性機能、農村景観維持機能などの多面的機能を有しており、畑作物の捨て作りや、耕作放棄地として、荒廃化させることは極めて大きな損失であります。我が国水田が再び水稲生産に全面的に必要な時代が来るものと考え、その時までこの素晴らしい水田機能を破壊することなく維持し、農村地域社会を活性化することが大変重要であります。

水稲に代わる付加価値のある水生作物について、水生作物ジザニア研究会（三枝正彦豊橋技術科学大学特任教授）が23年にわたって研究を行ってきました。その結果、マコモタケの栽培が最も実用的かつ有効であるとされ、昨年の三重県玉城町の第5回全国マコモサミットの開催に至っています。そしてこのたび、この大会に参加した人々が発起人になり、東三河マコモ研究会を下記の如く発足することになりました。マコモタケの美味しさ、素晴らしい一度食したものは誰しもが認めるどころであり、くせのないほのかな甘さと歯触りは和、洋、中華料理の何れにも合い、現在80以上のレシピが紹介されています。またマコモタケは水はけの悪い田んぼを好み、生育が極めて旺盛で、栽培は10アール300-500本を移植し、基本的に有機栽培という至って簡単であります。是非皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

記

場所：新城市文化会館：302講習室

日時：平成21年3月1日（日）10時～12時

内容：発会式：挨拶：鈴木信一発起人代表

基調講演「マコモタケの魅力と町興し」豊橋技術科学大学特任教授：三枝正彦

本年度の栽培計画と苗の共同購入、幹事の選出など

平成21年2月1日

東三河マコモ研究会発起人代表：鈴木信一

同顧問：三枝正彦



### -----参加申込み要旨-----

事務局：〒441-1305 新城市竹広408番地 村田康助

電話：0536-22-3455、携帯：090-7614-7002

申し込みはFAXをお願いします。：FAX:0536-22-3914

参加します。

氏名（ふりがな）：

住所：〒

電話番号：

FAX 番号：

e-mail: